

## 第4回子ども読書活動推進計画策定委員会議 議事録

日 時	平成23年5月19日（木）14：30～16：30
場 所	福岡市婦人会館 大研修室（あいれふ9階）
出席者	別紙のとおり
議 題	（1）「新・福岡市子ども読書活動推進計画」の 策定について （パブリックコメントの実施結果）
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

### 1. 開会

※ 傍聴者なし

※ 欠席者紹介

### 2. 議題

「新・福岡市子ども読書活動推進計画」の策定について（パブリックコメントの実施結果）

委員長

議題『「新・福岡市子ども読書活動推進計画」の策定について』に関して、3月1日から3月31日にかけて市が実施したパブリックコメント手続きの結果及びそれを反映した計画案について、事務局から説明を。

事務局

\* 『「新・福岡市子ども読書活動推進計画」の策定について（パブリックコメントの実施結果）』説明

委員長

質問や意見はないか。

委員

「ヤングアダルトへのサービスの充実」のところは、郵送された資料から更に表現が変わっている。良い方に変っていると思う。最初は「ヤングアダルトサービスの充実」となっていた。「ヤングアダルトサービス」となると図書館の業務の名称になるから、どうかなと思っていた。「への」が入っていたので、納得した。「ヤングアダルト」という言葉は、図書館関係者にはすぐに分かるが、そうではない方にはどうかなと懸念していた。ヤングアダルトの解説の位置はここにしか入らないか。見出しに入っているほうが分かりやすい。位置の問題なので、どうしてもそこでないといけないとこだわるつもりはない。この計画を見る人は一般の方もご覧になる。言葉について意味が分からないということもある。以前、他県の同じ計画に関

わったとき、かなり詳しい用語集を付けるはめになったことがあった。できるだけ、分かりやすく、理解しやすいように、解説を付けた方がいいかなと思った。

委員長

他に何かないか。

委員

前もってパブリックコメント実施結果を送ってきたのを拝見して、やはり、この策定委員会で問題になったところは、件数的には、同じように表れている。現場で活動する者として、「やはり・・・」という思いを新たにしました。数字だけ見ると、説明にもあったが、家庭・地域での読書活動についてが20件、学校での読書活動についてが20件、学校司書についてが23件、図書館での読書活動が29件、4つの項目で、大部分を占めている。4つに共通して言えることは、誰が指導してやっているかということ、学校で地域の読書活動をどうするか、図書館でも読書活動を指導するのは、司書、ボランティアを指導するのはだれか、どこの場所でも司書が足りないということが、切実な問題になっている。ブックスタートにしても、司書が指導を行う。連携についても、だれが連携するのか、結びつけるのは、司書の仕事で大きいものがある。「検討してまいります。」「推進してまいります。」とあるが、それをだれがするのか。是非とも反映してもらいたかった。

委員

「ヤングアダルトサービス」については、パブリックコメント実施後の教育委員会会議での報告で委員が表現に驚かれた経緯がある。委員が言われたように、資料を送ってから後に表現を変えている。表現に関する懸念は払拭されたかなと思っているが、本日の会議をふまえて、この会議でご意見をいただき、最終原案をどうするかというのは、所管課と協議してやっていきたい。だいぶよくなったと思うが、指摘のところは少し不安があるので、今一度、関係課と話し合っって最終原案を固めたいと思っている。

推進の担い手については、特に学校司書の関係等には、多くのご意見が寄せられ、共通の思いで意見が述べられていた。パブリックコメントに対する福岡市の考え方として書いているが、今の配置でいいということではなく、8ページの72番にあるように、教育委員会のスタンスとしては、＝効果検証の途上で計画策定の時期が来たので、効果検証を終えていない段階では、「・・・配置終了校の配置効果の検証を行い、学校の実状に応じた学校司書の効果的な配置に努めてまいります。」という表現しかできなかった。具体的には、21年度と22年度に学校司書を配置した30の中学ブロックがあったが、配置期間の2年間を終了したということで、23年度からは、別の中学ブロック配置になった。配置効果を議論するのであれば、配置した効果もあるが、配置が終了した効果、影響についての検証を欠くことはできない。配置効果の検証は、現時点では、検証作業の途上にあるということ、このような表現になっている。5年間の計画を推進していく中でできるはずなので、その時点での結論をまだ書いていないと所管課から聞いている。多くの方からのご意見をいただいているが、あくまで検証作業中ということで、整理をしている。

委員

先ほどの学校司書配置の件だが、21年度、22年度と30名の配置をしている。それは「中学校ブロック」と言って、中学校1に対し、小学校1ということで、全て60校が、今、第一期を終えたところである。23年度、24年度で第二期をスタートをしたところである。30名の配置をして、60校、全て120校の配置を本年度よりスタートさせたところである。

結果については、先日行った学校司書あるいは司書教諭を中心とした学校図書館教育を中心に、担当者呼んで研修会を行ったところである。学校司書を配置することで、全国の読み上げ冊数の平均を上回るというよい結果が出たのはこの効果だと思う。

5年間を見通した予算化がされているので、先ほど委員の話があったように、本年度は配置を取りやめた学校の取組みがどのようになったかということ、継続的に図りながら読み上げ冊数が、極端に減ったならば、また、その辺を考えて結果、考察、検証、改善へと努めてまいりたい。

委員

総合図書館で読書相談員をしているが、学校図書館ボランティアとして子どもの出身の中学校に行っている。一昨年と昨年と、学校司書の配置がされており、それまでいなかったところに学校司書が来ていただいて、本当にこの2年間は、ボランティアとのよい関係もあり、とてもいい環境ができていたところであったが、学校司書が引き上げということになり、早速この4月から担当がいなくなった。例年だと5月の連休明けに年度計画を立てる等、招集して会議があったが、まだ今のところ学校からの連絡もない。お尋ねしたら、校長が替わり、司書教諭も替わり、学校司書もいなくなった、という状況だった。異動することが分かっていたが、次の司書教諭になるであろう方に前年度から「一緒に図書館をなんとかしましょう」というところまでは至っていない。引き継がれた先生も、何か仕事があることはお分かりだが、すぐに立ち上がろうというところには至っていない。いろんな学校の状況があり、うまくいっている学校もあると思うが、こんなに異動で大勢替わってしまうと、とたんに立ち消えといういことで、私たちボランティアももう呼びがかからない可能性があるかと危惧している。検証するというのも必要だが、早速困っている学校はいっぱいあるということをお伝えしたい。

委員

委員からの説明で、引き続き検証していかれるということで、安心した。先ほど言った司書というのは、学校司書に特定したわけではない。学校に配置された司書とは別に、図書館で子どもに直接指導したり、ボランティアに指導する方も司書。ブックスタートのとき、いろいろなことを頭となってやっていただきたい方も司書。例えば、公民館での本の配置やシステムを考えたとき、全ての項目に関わってくるところで、私たちボランティアが勝手にしてはいけないことではないかなと思う。その司書が学校に限らず足りない状態だということが出てきている。学校司書のこと、引き続き検証するというので、安心した。

- 委員 学校司書が学校に必要な理由というところで、子ども達が、より沢山、より深く、読書をする事そのものにとっても、学校司書の存在は大切だが、それにプラスして、調べ学習や総合的な学習等を実践していくうえで、図書館に司書がいることは、大変な力になると思う。子ども達がより深く学び、自分で考え、と言った課題解決型の学習を支える大切な存在ではないかと思う。そういう観点からも検証してみていただきたい。
- 委員 先ほど、ご意見をいただいたことをもとに、もっと広い視野でということを理解しているつもりでいる。一例として、学校司書という話をさせていただいた。調べ学習等で、大事にしなければいけない学校図書館教育でもあり、計画的、意欲的に進められなければいけないことでもあるので、子どもが読書しやすい環境づくりも大きな役割だと思う。そうしたところも含めて今後、検討・充実させていきたい。
- 異動によって引き継ぎがうまくいっていない事実を話していただいたが、引き継ぎ体制というところは、校長、教頭も含めたところでの連絡会等でも伝えたい。研修の中でもその辺のことを伝えたいが、そこのところを見通せない学校もあるということなので、今後連絡等をしていきたい。
- 委員長 他に何かないか。これが最後の機会になるので、言いたいことを言ってほしい。
- 委員 今回、この計画を見て、ブックスタートについての意見が非常に多く、市民の皆さんの関心が非常に高いのだなあとと思った。この計画で実施していく中で、ボランティアの方とお母さんとが、本当に気持ちよく、子どもと本を間においてふれあいができるように、環境を整え充実させてやっていただきたい。第一期でしたことを第二期も続けていくということだと思うが、内容が充実して気持ちのよいものになるように、ボランティアの方とそれぞれのお母さん方とのふれあいの場になるように、ご配慮いただきたい。各区で行われていることはそれぞれ違うと思う。インフルエンザの流行等があったりで、難しいことも困難なことも沢山あったと思うが、克服していく努力をしていただければと思う。
- 委員長 他にないか。
- 委員 補足して説明するが、配布している「新・福岡市子ども読書活動推進計画」については、基本的には今までに示したものであるが、今回、大きく変わっているところを言うと、計画本文の後に、25ページからは用語解説、29ページからは資料編として、21年度に行った子どもの読書活動に関する意識調査、関係法令等、参考資料を付けている。また、「はじめに」の文章も初めて披露している。併せて、タイトルが今のところ、「新・福岡市子ども読書活動推進計画」という表示になっている。最終計画案の段階では「福岡市子ども読書活動推進計画（第2次）」という名称に掲げたいと考えている。

- 委員長 参考までに、推進計画はどういうところに配布されるか。
- 委員 教育委員会を中心とした、関係部局、所管課、小・中・高等学校、総合図書館、子ども読書に直接関連する市のセクションには配布する。どれくらいつくれるかということもある。追加で来年度以降も作れるかどうかで予算要求を考えている。市民の方に多く知ってもらおうということでは、市のホームページに掲載するというので広く知っていただきたいと思っている。
- 委員 25ページの用語集について、どういう配列になっているか分からない。前に出ているページの初出順であれば、横にページを書いただけで用語集から先に見て、中味を見るということもできる。そうでなければ五十音順の方が探しやすい。「ヤングアダルト」がない。本文中に出てくる言葉はここに載せておいたほうがいいのか。
- 委員 登場していく順が基本だと思っているが、特にページを表記しなければ、五十音順が適当であることはよく分かる。検討させていただきたい。  
「ヤングアダルト」の意味は、直接説明を入れている。用語解説に載せるか議論したが、直接出てくるところできちんと説明をしたいということにした。今のところはこういう形にさせていただきたい。
- 委員 「ヤングアダルト」は中味で解説しているが「ブックスタート」やその他は解説していない。統一した方がいいのでは。
- 委員 所管課と相談の上で検討をさせていただく。
- 委員 用語解説のところで、気になることがある。1点目は25ページの特別支援教育のところ、「一人ひとり」。国語の表記的には、いいのであろうが、特別支援教育では「一人一人」という表現になっている。おかしくないか。所管課が調整してほしい。  
2点目は27ページの「障がい児施設」のところで、「・・・障がいのある児童が入所または通所し・・・」とあるが、「児童が」と限定されているが、「幼児・児童」とした方がいいのでは。所管課と確認してほしい。また、独立生活という文言があるが、独立と自立や自活等の文言が入っている。所管課と調整してほしい。
- 委員 所管課と協議して最終案に生かしたい。
- 委員 用語解説のところで、「朝読書」とあるが、学校では一般的に使われている言葉か。正式には「朝の読書」なのか。見出しが「朝読書」でいいのか。
- 委員 「朝読書」と言った方がいい。
- 委員 「朝の読書」の「の」は要らないか。

- 委員 短く言う。例えば「チャイム席」のようなもの。
- 委員 どちらかという和学校用語みたいなものか。「朝の10分間読書」の略等、入れておいたほうがいいのでは。
- 委員 「朝読書」という文言は現行計画には載っていない。「朝の読書時間について」という表現を使っている。この件も所管課と協議したい。
- 委員 ボランティアからすると、朝の読み聞かせを「朝読」、昼の読み聞かせを「昼読」と言ったりしているので、読み聞かせの読むと違うということが必要かもしれない。
- 委員 この会議で策定されたものは、推進会議という形で毎年進捗状況を把握、検証をすると聞いている。昨年、委員になったとき、各担当部署から、施策について評価シートをたくさんいただいた。見て思ったことは、本当に頑張っていると思うが、1年目、2年目、3年目をコピーして貼り付けたというふうにしか見えないところが沢山あった。これで、計画の評価がAだ、Bだと言ってあるが、1年目をして、2年目に何も変わってなくて貼り付けたものが、同じ文章で本当に頑張ってもらったのかなと思ったところはある。せつかく会議が毎年あるのであれば、今年はこういうところを頑張ったということが書面で出るような、もう少し突き詰めた形で皆さんに検証していただきたいと思うので、書類の形で取組みの成果を見せていただきたい。
- 委員長 だいたい意見は出尽くしたと思う。最後に一言申し上げて終わりにしたい。
- 昨年10月の策定委員会でも言ったが、学校司書の配置の充実に関して、本日も意見が出された。私が強く要望した内容の見直しについては、今日の計画原案を見ても、残念ながら見直しはなされなかった。前回、委員から、今後、学校司書配置校及び配置終了校から検証を行い、学校の実状に応じた学校司書の効果的な配置をするという説明があった。パブリックコメントに対する福岡市の考え方でもそのように示されている。従って、配置効果については、現在も検証中で、今後はその効果を見極めた上で、福岡市教育委員会として、必要に応じた措置をとる、そういう認識でよろしいか。
- 委員 検討しながら進めたい。
- 委員長 再度確認したい。学校司書配置問題を始め、本日出された各委員の意見と対応については、新計画の最終的承認がなされる5月24日の教育委員会会議においても、明確に説明していただきたいということを策定委員会の委員長として強く要望する。それでは、これをもって終わりにしたい。事務局におかれては、委員の皆様からの意見を充分検討していただき、計

画に反映していただくように再度お願いします。

4. 教育支援部長あいさつ  
\* (内容は省略)
5. 閉会

終了

第4回福岡市子ども読書活動推進計画策定委員会議出席者名簿

平成23年5月19日

【子ども読書活動推進計画策定委員会委員】

委嘱区分	所 属	氏 名
学識経験者	九州情報大学副学長	安藤 延男
	佐賀女子短期大学准教授	白根 恵子
社会教育関係者	福岡市社会教育委員会議委員長	松尾 祐作
学校図書館関係者	中学校図書館教育委員会会長(元岡中学校校長)	花木 成慈
	小学校図書館教育委員会委員長(舞鶴小学校校長)	吉野美智子
	司書教諭(長丘小学校教諭)	池田さくも
	学校司書(高取小・高取中)	片桐由美子
	特別支援学校長(東福岡特別支援学校)	小関 正利
家庭教育関係者	福岡市PTA協議会副会長	多比良啓子
ボランティア活動者	ブックスタートボランティア(絵本ふれあいタイム早良区代表)	田中 兆子
	学校図書館ボランティア(福岡市小学校図書館よみかぜボランティアネットワーク)	甲斐 景子
	図書館おはなしボランティア(福岡おはなしの会代表)	八尋 理恵
	地域文庫活動者(小田部文庫)	鑪 しずこ
図書館関係者	図書館司書(総合図書館読書相談員)	小久井明京美
書店組合	書店組合代表(福岡県書店商業組合理事長)	山口 尚之
子ども行政	こども未来局こども部こども発達支援課長 子育て支援部保育所指導課長	古賀 俊次 福嶋 利明
コミュニティ行政	市民コミュニティ推進部公民館支援課長	近藤 暢也
教育行政	教育委員会教育支援部学校支援課長	橋爪 秀三
	指導部学校指導課長	穴井 福代
	総合図書館図書館図書サービス課長	渕 清隆
	教育支援部生涯学習課長	安部 修
計		22名

【事務局】

役 職 名	氏 名
教育委員会教育支援部長	西山 眞弓
教育委員会教育支援部生涯学習課生涯学習係長	坂崎 久美子
教育委員会教育支援部生涯学習課家庭教育支援係長	大森 哲子